

2026年5月7日

お客様各位

日本クレア株式会社



富士生育場 No.8.2F.B室における BALB/cAJcl-nu/nu  
Staphylococcus aureus 検出についての最終報告 [第四報]

平素より格別のお引き立てを賜り、誠にありがとうございます。

2025年12月に富士生育場 No.8.2F.B室で発生致しました BALB/cAJcl-nu/nu における *Staphylococcus aureus* 感染事象につきまして、第三報以降も社内調査委員会にて原因究明および再発防止策の検討を進めてまいりました。

本報告書では、対応策および今後の運用体制を整理し、本件に関する一連の取り組みを最終報告としてまとめましたのでご報告申し上げます。

■第三報の対応方針に基づく再発防止策

①消毒薬管理体制の強化

作製した消毒液の濃度低下による感染リスクを防止し、安定した衛生管理を確保することを目的としております。

実施内容

- 全飼育棟の次亜塩素酸ナトリウム液の濃度を確認いたしました。
- 全飼育担当者に対して消毒薬管理に関する教育訓練を実施し、理解と意識向上を図りました。

効果・運用体制

原液の濃度を測定し、開封後2か月では濃度低下が起こらないことが確認できたため、飼育室内の次亜塩素酸ナトリウム液は開封後2ヶ月以内に使い切る運用に変更致しました。

②免疫不全動物取り扱いにおける衛生管理の強化

免疫不全動物を取り扱う際の感染リスクを最小化し、施設内の衛生管理を徹底することを目的としております。

実施内容

免疫不全動物の取り扱いに関する教育訓練を担当者に対して実施いたしました。教育訓練では、作業手順の策定意図を理解したうえで、手袋交換や手指消毒の徹底など

基本的な衛生管理を再確認いたしました。また、消毒および清拭の目的やその重要性についても説明し、感染防御に対する理解の向上を図りました。

#### 効果・運用体制

担当者の衛生管理に対する意識向上を図るとともに、作業手順の感染防御効果を改めて確認いたしました。これにより、施設内における衛生管理手順の標準化および安定した運用体制を確立いたしました。

#### ③施設設備の点検および修繕管理体制の強化

施設設備の不具合による感染源の持ち込みを防止し、感染リスク箇所の早期発見および安定した飼育環境の維持を目的として実施いたしました。

#### 実施内容

- 雨漏り等の既知の設備課題について、施設管理課立会いのもと業者による施設の点検を実施し、必要な修繕対応を行っております。(2026年2月)
- 従来の施設点検の状況を確認したところ、施設担当者ごとに点検方法が異なっていることが判明しました。これを踏まえ、日常的に飼育室で作業する飼育担当者による異常の早期検知機能向上も含め、点検体制の標準化および飼育担当者の意識向上を目的として、複数の施設担当者、または施設担当者と飼育担当者が共同で点検を実施する体制へ見直しました。併せて、点検項目表および点検計画を業者とともに作成し、マニュアル化を進めております。
- 施設管理課において、生産施設の点検方法に関する教育訓練を実施しました。訓練に先立ち担当者への聞き取りを行い、点検の目的および現行手順の理解状況を確認しました。併せて、指導者の明確化、理解度評価、継続教育の実施、点検表の妥当性確認を行い、点検運用の精度向上を図りました。

#### 効果・運用体制

施設設備の点検・修繕管理体制の標準化およびマニュアル化が進み、点検精度の向上と情報共有の強化が図られました。これにより、施設設備の不具合を早期に把握し、迅速な修繕対応を行うことが可能となりました。

#### ④モニター動物の管理体制の見直し

施設内微生物モニタリングにおける検出感度を確保し、コロニーの微生物管理状態をより適切に反映したモニタリング体制を確立することを目的としております。

#### 実施内容

- モニター動物の設置方法および飼育管理方法について、担当者への再教育を実施いたしました。(2026年2月、3月)

- 今後は、すべての飼育室におけるモニター動物の飼育管理方法について、弊社微生物検査部門が統括管理を行う体制とし、管理基準の統一および運用状況の継続的な確認を実施してまいります。

## 効果・運用体制

本対応により、モニター動物の設置および飼育管理方法の標準化が進み、施設内コロニーの微生物管理状態をより適切に把握することが可能となります。

また、微生物検査部門による統括管理体制を整備することで、モニタリング精度の向上および管理体制の強化を図り、施設全体の衛生管理レベルの維持・向上を推進してまいります。

現在実施しております、4週齢時に出荷対象匹数全体をカバーする割合での *Staphylococcus aureus* 糞便検査につきましては、2027年3月31日をもって終了とさせていただきます。

2027年4月出荷分以降は、ダーティベッティングで飼育している各飼育室のモニター動物から採取した糞便を用いた検査を毎週実施し、陰性確認を行ったうえで出荷する運用へ移行いたします。引き続き、出荷前段階における感染リスクを監視する体制を維持してまいります。

## ■BALB/cAJcl-nu/nu コロニー再構築と出荷再開について

富士生育場における BALB/cAJcl-nu/nu につきましては、今後 No. 10号棟 1F にて生産を行います。現在、当該飼育棟につきましては設備チェックを実施しており、終了後に施設洗浄および消毒を行ったうえで、コロニー構築を進め、2026年9月に♂、同年12月に♀の出荷開始を予定しております。

以上、本報告をもちまして、本件に関する最終のご報告とさせていただきます。本事象を重く受け止め、再発防止策の確実な運用および品質管理体制のさらなる強化に取り組むとともに、より安全で安定した実験動物の供給に努め、信頼いただける品質の維持・向上に継続して取り組んでまいります。

何卒ご理解を賜りますとともに、引き続きご指導ご鞭撻のほどお願い申し上げます。

問合せ先：

東京 AD 部：03-5704-7050

大阪 AD 部：06-4861-7101

以上